おたがいさま、たすけあい通信(橋本市生活支援協議体)

たすけ愛じはしもとだより

第3号 平成 29 年 8 月

発行 橋本市社会福祉協議会 〒648-0072 橋本市東家 1-3-1 1 1 33-0294

高齢になっても住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けたい…。多くの人がそう願っているのではない でしょうか。高齢化が進み、介護を必要とする方が増える一方で、それをささえる介護の担い手がなかな か増えない状況にあります。これからは、住民一人ひとりが助け合いのまちづくりをどのように進めてい くか、共に考えていくことが大切になっていきます。

「第3回たすけ愛♥はしもと会議」 を行いました

高齢化における橋本市のたすけあいの仕組みに ついて話し合う「たすけ愛♥はしもと(第1層生活 支援協議体)」を設立。6月29日(月)に第3回目 の会議を開催しました。

今回は、7月8日に開催する「みんなで創ろうた すけ愛♥はしもとフォーラム| および、フォーラム 終了後に立ち上げを進めていく2層生活支援協議体 について話し合いました。



○委員・事務局が一致団結!

このフォーラム開催の意味をしっかり把握して くれた委員さんからは、「私たちも当日は出来る限 り参加して受付も手伝って、参加してくれる人を迎 えよう!」「一致団結している意味を込めてジャン バーを揃えて着よう!」など、熱い思いを話し合っ て意見がまとまりました。

○第2層生活支援協議体設置に向けた取り組み

国が定めている第2層の想定区域は、中学校区と しており、活動の現場により近い立場で、地域の実 情を把握する必要があると言われています。橋本市 の場合は3つの中学校が統合され現在5校なので、 国が定めている想定区域ではなく、行政区割りの9 地区を想定圏域と仮設定しています。

しかし、画一的に行政区割りということではな く、住み慣れた地域の生活圏域設定が大切だと市も 柔軟に考えています。今後、各地区で話し合いをす る中で、一緒に考えていければと思っています。さ わやか福祉財団の担当リーダー森氏からは「全国的 にも当初は中学校区単位が多かったですが、最も多 いのは小学校区単位ですね。また立ち上げを進めて いくにあたっては理解が得られやすい地区があれ ば、その地区から進めていくことがいいでしょう」

と助言をいただきました。

主な意見は次のとおりです。

- ○地域で助け合い活動が既に行われている地区 は住民の理解を得られやすい。
- ○若い人は助け合い活動に今は関心が薄いかもし れませんが、だんじり等の集まりをキッカケに しても良いのでは。
- ○老人クラブ連合会としての取り組みを、助け合 い活動に繋げることができないか考えている。
- ○高齢者だけでなく多世代が交流できるような地 域づくりを考えるべき。若い世代にも継続して 情報発信していくべき。
- ★会議では、このほかにもたくさんの意見がでま したが、紙面の都合により割愛しております。

次回から会議では 1 人 1 回は意見を言おう! と いうローカルルールが決まりました。第2層協議 体設置に向けた具体的な進め方等については、フ オーラム終了後、アンケートを集約してから話し 合うことになりました。次回第4回会議は、8月 2日(水)です。

生活支援サポーター養成講座「介護 従事者コース」を開催します!

単身高齢者世帯や高齢者夫婦のみ世帯の増加に 伴い、生活支援(買い物やゴミだし等)や介護予 防(高齢期における健康づくり)の必要性が高ま っています。生活支援を必要とする高齢者が増加 する中、高齢者の生活を支える新たな担い手を養 成するため、本講座を開催し、生活支援における 基礎知識を身につけ、介護従事者として仕事に携 わっていただくことを目的とします。参加対象な どの要件がありますので、詳しくは市社会福祉協 議会までお問い合せください。

<介護従事者養成コース>

日時 9月8日(金)、

10月5日(木)の何れか1日。 時間は何れも 10:15~16:30

場所 橋本市保健福祉センター3階 栄養指導室 (洋室)

内容 () 高齢者を支える健康福祉施策

○サービス提供の基本視点

○認知症について など

参加費 無料・定員20人

申込先 市社会福祉協議会 電話 33-0294

みんなで創ろう たすけ愛**♥**はしもと フォーラム開催しました

地域包括ケアシステム構築に向けて、住み慣れた地域で、健康で自分らしく生きがいを持って暮らすためにはどうしたら良いかを考える「みんなで創ろう たすけ愛♥はしもとフォーラム」が、7月8日(土)橋本市教育文化会館2階大ホールで開催しました。参加者は約330名で会場はほぼ満席。地元の方をはじめ、県内では新宮市、県外では京都府といった遠方からもお越しいただき、みなさんの関心の高さをあらためて確認させていただきました。

平木市長挨拶、中谷いきいき長寿課長から「市の現状と取り組みについて」報告の後、公益財団法人さわやか福祉財団 堀田 力会長からの基調講演がありました。内容は地域包括ケアシステムの構築には、専門家による医療・介護の在宅支援のネットワークづくりと、ご近所同士の助け合いの仕組みであることを話されました。本市においては、支え合いの仕組みを検討していく生活支援コーディネーターと協議体が設置されていることを紹介していただき、今後は、さらに日常生活圏域(2層)での協議体の立ち上げが重要であることが説明されました。

また、パネルディスカッションでは、助け合い活動実践者2名と生活支援コーディネーター、平木市長が登壇。堀田会長とのやり取りの中では、事例発表していただいた助け合い活動をもっと橋本市に広げていくため、それぞれが工夫・連携することが大切であるということを確認し、会場にお越しのみなさんと共有することができました。

今後は、参加いただいた方々を中心に、市内に第2層の協議体を立ち上げていくことになります。アンケートにご協力いただきましたので一部抜粋して紹介いたします。

アンケートには、第2層協議体に参加したいと言われる方がたくさんいました。協議体を設置していくためには核となる人が必要不可欠です。なんて心強いんだ!と思ったと同時に気が引き締まりました。

それぞれの地域には特徴や特性があり、地域の色がでてくるんだと思います。どんな話になるのか本当に楽しみです。今後、地域での話し合いも紙面で紹介していきます。



基調講演の会場の様子。丸枠内はご講演いただいた公益財団法人さわやか福祉財団の堀田 カ会長。









パネリストのみなさん。左から NPO 法人ささえあい橋本(山本さん)、垂井地域サポート会(吉田さん)、第 1 層望月コーディネーター、平木橋本市長。



第1層生活支援協議体(たすけ愛♥はしもと)の委員のみなさん



● 参加者の声 ●

みなさん積極的、協力姿勢が感じられます。第2層を早く立ち上げて、輪を積極的 に広めるべきと思います。もう少し早く組 織作りをしてもいいのでは?



今日の内容は、待ったなしに必要なことだと思っています。地域ごとに課題は異なっていることもあるし、共通の課題もあると思います。自分自身の今後を安心にできるものにするためにも今から何か始めていかないとだめだと感じています。しかしながら、人手不足の地域のためどうしたものか…と悩みは大きいです。